

県立高等学校教育推進実施計画（第1期）について

このことについて、計画を策定したいので、別添案を添えて請議します。

平成28年2月8日提出

教育長 野村道朗

説明

この案を提出するのは、本県高等学校教育を取りまく諸課題を踏まえて、時代の変化や生徒のニーズを踏まえた高等学校づくりを推進するために、10年間を見据えたグランドデザインである「県立高等学校教育推進基本計画」に基づき、第1期の5年間を計画期間とする「県立高等学校教育推進実施計画（第1期）」を策定するためである。

県立高等学校教育推進基本計画 (高等学校将来ビジョン)の推進

県立高等学校基本計画

本県の県立高等学校についての 10 年先を見据えたグランドデザイン

県立高等学校将来ビジョン検討会議を 4 回開催 (平成 26 年 6 月 ~ 平成 27 年 2 月)



パブリックコメントの実施
(平成 26 年 12 月 ~ 平成 27 年 1 月)



基本計画の策定 (平成 27 年 3 月)

< 基本計画の 5 つの柱 >

- ・ グローバル社会で活躍できる人材の育成
- ・ キャリア教育と職業教育の一層の充実
- ・ 魅力ある高等学校教育の基盤づくり
- ・ 生徒のニーズを踏まえた様々なタイプの高等学校の配置
- ・ 生徒が減少する地域における対応

教育委員会内において、基本計画を具体化するために、計画期間を第 1 期、第 2 期に分けて実施計画を策定する

| 実施計画の区分 | 計画期間 |
|-----------|----------------------|
| 第 1 期実施計画 | 平成 27 年度から平成 31 年度まで |
| 第 2 期実施計画 | 平成 32 年度から平成 36 年度まで |



第 1 期実施計画検討委員会 (平成 27 年 5 月 ~ 12 月)

- ・ 県立高等学校長、中学校長などによる検討委員会で 6 回協議を重ね、第 1 期実施計画案を作成



平成 28 年 2 月 8 日教育委員会会議にて第 1 期実施計画を策定



第 1 期実施計画の推進及び計画の周知 (冊子の配付・ホームページへの掲載)

県立高等学校教育推進実施計画(第1期)の概要

| 項目 | 基本計画(平成27年3月) | 第1期実施計画(平成28年2月) |
|--------------------|---|---|
| グローバル社会で活躍できる人材の育成 | <p>海外の文化や言語を学べるコースの設置</p> <p>わが国と関わりの深い近隣アジア諸国などの文化や言語を学べるコースを設置します。</p> | <p>国際教養科や国際理解コースを全県にバランスよく設置することを検討</p> <p>国際教養科新設 刈谷北高校(国際理解コースを改編) 国際理解コース新設 中村高校、一宮西高校、安城東高校</p> |
| | <p>海外交流の促進</p> <p>高校生の海外派遣や留学支援の事業を一層推進するとともに、海外の高校生を積極的に受け入れ、海外の文化に接する機会を広げます。</p> | <p>高校生の留学支援の拡充と近隣アジア地域からの高校生訪日団の積極的な受入を目指す</p> <p>工業科・商業科で開始した海外インターンシップを、他の専門学科や総合学科にも拡大することを目指す</p> |
| | <p>国際大会ボランティア養成を通じたグローバル人材の育成</p> <p>東京オリンピック・パラリンピックやフットサル世界大会の開催に向け、高校生を将来の国際大会ボランティアに養成します。</p> | <p>平成29年度から3年間、「国際大会ボランティア養成講座」の開設を検討</p> |
| | <p>外国人の学びの場の整備</p> <p>外国人生徒等を対象とした入学者選抜の実施校の拡大と教育支援員の配置拡充に努めます。</p> | <p>外国人生徒等選抜の実施校を現行の4校から9校に拡大</p> <p>外国人生徒教育支援員の配置の一層の拡充</p> |

キャリア教育コーディネーターの配置

インターンシップ、社会人講師の招へい、ボランティア活動などの学校の活動を円滑に実施するため、キャリア教育コーディネーターの配置を検討します。

インターンシップやボランティア活動の受け入れ先の開拓や、社会人講師の活用を推進するキャリア教育コーディネーターを地域ごとに配置し、各学校のキャリア教育を支援

ニーズを踏まえた学科改編等

各職業学科において、時代のニーズを踏まえた魅力的な学科への改編を進めます。

産業構造の変化や科学技術の進展等に伴う社会のニーズの変化を踏まえ、各職業学科において学科改編等の実施を検討

【主な学科改編等(詳細は冊子 12～15 ページ)】

工業科

[平成29年度以降]

小牧工業高校：機械科の一部

航空産業科

(航空・宇宙産業を担う技術・技能者の育成)

名南工業高校：情報技術科

資源エネルギー工学科

(環境・資源・エネルギー問題に対応できる技術・技能者の育成)

商業科

[平成30年度、31年度]

総合学科への改編

緑丘商業高校(平成30年度)

知立高校(平成31年度)

[平成32年度以降]

高度な専門性を身に付けたり、地域の特色やニーズに対応するなど、各商業高校の特色化を進めるとともに、「商業高校」の名称についても検討

実習用施設・設備の充実

産業教育施設・設備の計画的な整備を図ります。

産業教育設備の基本方針を策定し、実習用設備の計画的な整備を目指す

| 項目 | 基本計画（平成27年3月） | 第1期実施計画（平成28年2月） |
|------------------|--|--|
| 魅力ある高等学校教育の基盤づくり | <p>ICT機器などの教育環境の整備</p> <p>情報活用能力やプレゼンテーション能力を育むため、<u>授業で活用するICT設備の充実を図ります。</u></p> <p>施設の改修等に併せて、現在は総合学科のみに整備されている<u>プレゼンテーションルームを各校に整備します。</u></p> | <p>無線LANやタブレット端末などのICT教育環境の整備を目指す</p> <p>プレゼンテーションルームをすべての高等学校に整備することを目指し、施設の改修等に併せて順次整備</p> |
| | <p>老朽化対策の計画づくり</p> <p><u>全庁的な計画や国の動向を踏まえつつ、建物の長寿命化を含めた老朽化対策の計画を早期に作成していきます。</u></p> | <p>「県立学校施設の長寿命化計画」を策定し、老朽化対策に取り組む</p> |
| | | <p>計画の策定期限は平成32年度までとなっているが、できるだけ早期の策定に努めるとともに、一刻も早い改修が必要となっている建物については、計画の策定を待つことなく改修を実施することを検討</p> <p>計画の策定に当たっては、老朽化対策のほか、学習環境の質的向上にも配慮し、アクティブ・ラーニングへの対応やトイレの洋式化など、県立高等学校施設に求められる機能、性能の確保を図るとともに、魅力ある高等学校づくりを推進するための施設の整備を目指す</p> |

総合学科の新たな設置

既存の総合学科への通学が容易でない地域を中心に、新たな総合学科の設置を進めます。

総合学科への改編の検討（再掲）
平成30年度 緑丘商業高校(商業科)
〔名古屋市守山区〕
平成31年度 知立高校(普通科・商業科)〔知立市〕

平成31年度以降にさらに3地域程度での設置を目指す

普通科コースの新設

時代の変化や生徒・保護者、地域のニーズを踏まえ、必要に応じて既設コースの改廃や新たなコースの設置を検討します。また、コース設置校が、それぞれの地域において、特色ある教育活動とその成果、取得できる資格、卒業後の進路などについて発信する場を設けます。

「情報活用コース」については、一部の学校で廃止（犬山高校、幸田高校）もしくは、資格取得を目指して積極的に職業科目を取り入れた「情報ビジネスコース」に改編（守山高校、尾西高校、東浦高校、衣台高校、一色高校）

教員に求められる資質を身に付けた人材を育成する「教育コース」新設の検討（半田東高校、豊橋南高校）

医療・看護系の上級学校と連携した実践的、体験的な学習や「心」の教育を行う「医療・看護コース」新設の検討（長久手高校、豊田高校）

保育士に求められる人間性、社会性等の資質を育成する「子ども発達コース」新設の検討（武豊高校）

「美術コース」(東郷高校)、「スポーツコース」(豊橋西高校)、「創造表現コース」(名古屋西高校)新設の検討

観光産業全般で活躍できる人材を育成する「観光ビジネスコース」新設の検討（福江高校）

| 項目 | 基本計画（平成27年3月） | 第1期実施計画（平成28年2月） |
|---------------------------|--|--|
| 生徒のニーズを踏まえた様々なタイプの高等学校の配置 | <p>昼間定時制や全日制の単位制高校の設置</p> <p>特別な事情をもつ生徒の学習ニーズに 応えていくため、全県の県立高等学校の 配置を考える中で、<u>興味・関心に応じて 科目を選択し、自分のペースに合わせて 学習できる昼間定時制や全日制の単位制 高校の設置を検討します。</u></p> | <p>ステップアップハイスクール(二部制 単位制の定時制高校)の設置(愛知工 業高校校地に平成29年度開校)</p> <p>御津高校に昼間定時制課程併設の 検討</p> <p>地域のバランスを考慮し、3校程度を 全日制単位制高校に改編することを検 討</p> |
| 生徒が減少する地域における対応 | <p>東三河地区の魅力ある教育内容をもつ 学校への改編と学校の統合</p> <p>魅力ある教育内容をもつ学校への改編 等を進めるとともに、既存の連携型中高一 貫教育における交流活動の一層の充実を 図ります。また、各学校の学級数の縮減を 図りつつ、<u>山間地域等の教育に配慮するな ど地域の実情を踏まえて、校舎(分校)化 や統合も含め、将来的な学校配置の構想を 検討します。</u></p> | <p>魅力ある学科・コース等設置の検討 (教育コース、観光ビジネスコースなど)</p> <p>福江高校と地域の中学校間で連携型 中高一貫教育実施の検討</p> <p>新城東高校(普通科)と新城高校(農 業科、商業科、家庭科)の2校を統合</p> |

- 1 コース：県教育委員会が普通科の一部に特色ある教育課程をもつコース（原則 40 人）を特別に設けるもの。生徒の多様な興味・関心に応えられるよう体験的・実践的な科を 3 年間で、10 単位～18 単位程度履修する。
- 2 国際教養科：専門教科・科目を 25 単位以上履修する専門学科の一つ。国際社会で活躍できる自立した若者を育成するための教育を実践し、日本文化や異文化を理解し地球規模で考えることができる力や、英語でディベートを行うことができる力など、英語を使いこなし情報を活用できる力の育成を目指す。「異文化理解」、「時事英語」などの専門科目や、フランス語、中国語などの第二外国語など、特色ある教育課程を編成する。
- 3 国際理解コース：我が国及び諸外国の歴史・文化・言語に対する理解を深め、国際社会に積極的に参加するために必要な素養を身に付けた人材の育成を目指すコース。
- 4 海外インターンシップ：専門高校生を対象に、海外企業でのインターンシップ及び現地高校生との交流活動等を体験させることで、主体的かつ積極的に異文化に接する態度を育成するとともに、広い視野に立ったグローバル人材の育成を図る取組。
平成 27 年度：工業科 シンガポール 生徒 4 名、教員 1 名
商業科 マレーシア 生徒 4 名、教員 1 名
- 5 国際ボランティア養成講座：各界から講師を招き、日本文化や異文化理解、おもてなし、通訳技法、観光ガイドなどを通じてスポーツ等の国際大会でボランティアとして活躍するための素養を身に付ける講座。
- 6 外国人生徒等選抜：外国籍を有し、小学校第 4 学年以上に編入学した生徒等を対象とする特別な入試。学力検査は国語・数学・外国語（英語）の 3 教科で、漢字にはルビを付している。
- 7 外国人生徒教育支援員：日本語によるコミュニケーション能力が十分に身に付いていない外国人生徒等を対象に学習活動や学校生活を言語の面でサポートする支援員。
- 8 キャリア教育コーディネーター：キャリア教育に関する専門的な技術、手法、情報、経験などをもち、学校と企業との橋渡し役として、インターンシップの受入れ先の開拓・連絡調整、社会人講師による講演会の企画・運営等を行い、高等学校におけるキャリア教育を支援する人材。
- 9 航空産業科：材料力学や構造力学など航空・宇宙関連の学習を取り入れることで、航空・宇宙産業の裾野を広げ、革新的な進化を続けていく航空・宇宙産業を担う技術・技能者の育成を目指す。
- 10 情報技術科：情報化社会を支えるコンピュータやネットワークに関する基礎技術を学び、制御技術や情報技術の知識と技能を身に付けた技術者の育成を目指す。
- 11 資源エネルギー工学科：持続可能な社会を支えるための工業教育をおこなうことを目的として、現代の日本並びに世界が抱える環境・エネルギー・資源の問題に重点を置き、こうした問題についての工業の各分野での取組について学習することで、エネルギー

ギーに関する産業現場で活躍できる人材の育成を目指す。

- 12 総合学科：普通科、専門学科に並ぶ学科で、普通科と専門学科の教育内容を併せもち、幅広い選択科目の中から、生徒が自己の興味・関心に基づき主体的に科目を選択し、学習する。進路希望に応じた系統的な学習ができるようキャリア教育が充実しており、将来についてしっかり考え、進路選択をすることができる力の育成を目指す。
- 13 プレゼンテーションルーム：総合学科で整備されている施設の一つで、生徒の探究的な学習の成果を発表するためのプロジェクターや大型スクリーン等が常設しており、1学年全員を収容できる規模のものが多い。
- 14 学校施設の長寿命化：施設の構造部分（建物の場合は躯体）が健全である限り、適切な維持保全を行い、適切な時期に大規模改修（屋上防水や給排水設備の更新など）を行うことによって、施設の寿命を永らえさせること。
県立学校施設の長寿命化計画：県立学校施設の長寿命化計画：老朽化対策を軸とし、基本的な方針に基づく実際の整備内容や時期、費用等を具体的に表す計画であり、安全・安心の確保を最優先に学校施設の中長期的な維持管理等にかかるトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保すること等を目的とする。
- 15 アクティブ・ラーニング：教員が一方的に生徒に知識伝達をする講義スタイルではなく、課題研究やディスカッション、プレゼンテーションなど、生徒による能動的な学習への参加を取り入れた指導方法。
- 16 情報ビジネスコース：情報科目と職業科目を取り入れた教育課程を編成し、ICT機器の活用能力の向上と資格取得を目指すコース。
- 17 教育コース：教員になることを志す生徒を対象に、地元の小中学校や教育大学等との連携のもと、教育や教員の仕事についての学習やボランティア活動等を通じて、教師として必要な資質能力の育成を目指すコース。
- 18 医療・看護コース：将来医療や看護の分野に進もうとする生徒を対象に、大学・専門学校や病院との連携のもと、医療・看護の仕事についての学習や体験的な活動を取り入れ、社会に貢献できる医療・看護者の育成を目指すコース。
- 19 子ども発達コース：心やからだの発達、言語・音楽・造形表現など、子どもの教育と発達を総合的に学び、保育士に求められる人間性、社会性等の資質の育成を目指すコース。
- 20 創造表現コース：国語や英語での言語表現、演劇などの舞台芸術、映像に関する科目などを幅広く学習するほか、各専門分野の外部講師を活用した授業を積極的に取り入れることにより、表現力や創造性の育成を目指すコース。
- 21 観光ビジネスコース：観光に関する分野についての知識と技術の習得を目指すとともに、ホスピタリティ（おもてなし）の精神を育てるために、地元観光産業と連携したり街歩きマップを作成したりするなど体験的な学習を重視した教育課程を編成し、観

光産業全般で活躍できる力の育成を目指すコース。

- 22 ステップアップハイスクール：昼間定時制課程と夜間定時制課程を併設する二部制単位制の定時制高校

昼間定時制課程：昼間に原則として1日4時間の授業を学習する定時制である。通常、単位制であることが多く、興味・関心のある科目を選択することができる。原則として4年間で卒業するが、特別な講座を選択することにより3年間で卒業することも可能であり、自分のペースに合わせて柔軟に学ぶことができる。

- 23 単位制：学年による教育課程の区分がなく、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて履修する科目を選択し、3年間の修得単位数の合計が、卒業に必要な単位数を満たせば卒業が認められる。

- 24 中高一貫教育：中学校と高等学校の6年間を接続し、6年間の学校生活の中で計画的・継続的な教育課程を展開することにより、生徒の個性や創造性を伸ばすことを目的として、平成11年度から導入された制度。次の3つの実施形態がある。

(1) 中等教育学校：同一の設置者が一つの6年制の学校として運営する。

(2) 併設型中高一貫教育：同一の設置者が中学校・高等学校を併設する。

(3) 連携型中高一貫教育：異なる設置者間でも実施可能な形態であり、中学校と高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める。



教育は
未来へつなぐ
希望の輪

県立高等学校教育推進実施計画〔案〕 (第1期)

この実施計画は、時代の変化やグローバル社会を生きる多様な生徒のニーズを踏まえた高等学校づくりを推進するため、「県立高等学校教育推進基本計画（高等学校将来ビジョン）」(平成27年3月24日)に基づき、平成31年度まで(第1期)を目標とする具体的な内容を示したものです。

なお、具体的な学校名や実施年度の記載のないものについては、更に検討した上で発表します。

平成28年2月
愛知県教育委員会

目 次

| | | |
|---|---------------------------|--------|
| 1 | グローバル社会で活躍できる人材の育成 | ・・・ 1 |
| | (1) 国際理解教育の推進 | ・・・ 1 |
| | (2) 科学技術人材の育成とICT教育の推進 | ・・・ 6 |
| | (3) 芸術、スポーツなどの分野における個性の伸長 | ・・・ 8 |
| 2 | キャリア教育と職業教育の一層の充実 | ・・・ 9 |
| | (1) キャリア教育の一層の充実 | ・・・ 9 |
| | (2) ものづくり愛知を支える職業教育の一層の充実 | ・・・ 12 |
| 3 | 魅力ある高等学校教育の基盤づくり | ・・・ 18 |
| | (1) 教員の指導力向上と様々な学びの機会の充実 | ・・・ 18 |
| | (2) ICT環境及び安全な施設・設備の充実 | ・・・ 21 |
| 4 | 生徒のニーズを踏まえた様々なタイプの高等学校の配置 | ・・・ 22 |
| | (1) 総合学科の新たな設置と普通科の活性化 | ・・・ 22 |
| | (2) 多様な生徒のニーズに応える学校づくり | ・・・ 26 |
| 5 | 生徒が減少する地域における対応 | ・・・ 30 |

県立高等学校教育推進実施計画（第1期）

1 グローバル社会で活躍できる人材の育成

(1) 国際理解教育の推進

基本計画における改革の方向

自国及び他国の歴史や文化についての理解を深め、これを尊重する態度を養います。

また、グローバル社会の進展、とりわけ多くの外国人が居住する本県の状況を踏まえ、多文化共生社会で求められる強い精神力と、自分とは異なる歴史や文化に立脚する他者に対して共感する力を育成します。

生徒が海外の文化に直接触れることができる様々な場をつくり、異文化理解の促進を図るとともに、国際共通語である英語などによるコミュニケーション能力を育成します。

海外の文化や言語を学べるコースの設置

諸外国との関係が今後ますます重要になってくることを踏まえ、我が国と関わりの深い国の言語や文化を学べる国際教養科や国際理解コースを全県にバランスよく設置することを検討します。

国際教養科新設の検討

刈谷北高校（国際理解コースを改編）

既設 千種高校、尾北高校、御津高校

国際理解コース新設の検討

中村高校、一宮西高校、安城東高校

既設 津島高校、常滑高校、豊橋東高校

海外交流の促進

異文化を理解しグローバルな視野を養うには海外の文化に直接触れる経験をもつことが重要であることから、高校生の留学支援の拡充を目指すとともに、各校が実施する海外の学校との姉妹校提携や学校間交流の取組の一層の活性化と拡大に努めます。

（参考） 高校生海外チャレンジ促進事業

平成27年度の支援生徒数：20人

海外の学校との姉妹校提携などの定期交流

平成26年度の実施校数：31校

国際的な視野と、国際親善や国際理解の精神を身に付けた職業人の育成を図るため、平成27年度に工業科、商業科の生徒を対象に開始した海外インターンシップ事業を、他の専門学科や総合学科にも拡大することを目指します。

(参考) 専門高校生海外インターンシップ事業

平成27年度派遣生徒数：8人(シンガポール4人、マレーシア4人)

海外からの留学生や訪問団の受け入れは異文化理解を図る上で大きな効果があることから、留学斡旋団体等からの照会や依頼に積極的に対応し、長期・短期の留学生の受け入れを推進するほか、外務省の青少年交流事業等を活用して、近隣アジア地域からの高校生訪日団を積極的に受け入れ、多くの本県の高校生がアジア諸国の高校生との交流体験を通じ、異文化に対する理解を深めることができるよう努めます。

(参考) 外務省の青少年交流事業による高校生訪日団の受け入れ状況

県立高校8校に計122人(タイ66人、中国20人、香港36人)(平成26年度)

外国人生徒等の学びの場の整備

本県の小中学校には全国最多の外国人児童生徒が在籍していることから、その学びの場を広げるため、平成28年度入学者選抜より外国人生徒等選抜の実施校を、現行の4校から9校に拡大するとともに、その成果と課題を検証し、更なる実施校の拡大を検討します。

また、平成29年度に行う入学者選抜制度の改善に合わせ、外国人生徒等選抜の学力検査の方法を、外国人生徒の学習状況により配慮したものとしていきます。

外国人生徒等選抜の新たな実施校

中川商業高校、東浦高校、豊田工業高校、安城南高校、豊川工業高校

現在の実施校

名古屋南高校、小牧高校、衣台高校、豊橋西高校

外国人生徒等選抜実施校や定時制高校など、日本語の能力が十分身に付いていない外国人生徒が在籍する学校には、外国人生徒の学習活動や学校生活等を支援する教育支援員を配置していますが、今後、外国人生徒等選抜実施校の拡大等に伴い、支援を必要とする外国人生徒の増加が見込まれることから、教育支援員の配置の一層の拡充を図ります。

(参考) 平成27年度の外国人生徒教育支援員による支援状況

配置校：全日制7校、定時制19校

支援対象生徒：259人(全日制70人、定時制189人)

(母語別) : ポルトガル語103人、スペイン語17人、中国語42人、
フィリピン語75人、他22人

延べ支援時間 : 8,033時間 (全日制3,159時間、定時制4,874時間)

愛知工業高校校地に平成29年度に開校する二部制単位制の定時制高校(ステップアップハイスクール)(P26参照)に、外国人生徒等を対象とする「多文化共生校」の設置を検討します。

英語教育の一層の充実

英語によるコミュニケーション能力を育成するためには、英語の授業改善と教員の指導力向上が不可欠であることから、あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業及び「英語教育指導者研修」により、英語によるコミュニケーション能力を高める指導技法を普及し、英語の授業改善を推進します。

(参考) あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業

先進的英語教育の拠点となるハブスクール12校を指定し、指導方法の研究、地区別授業研修などを通じて、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

千種高校、中村高校、瀬戸西高校、尾北高校、一宮西高校、津島高校、常滑高校、
豊田北高校、西尾高校、刈谷北高校、豊橋東高校、御津高校(計12校)

英語教育指導者研修

生徒のコミュニケーション能力を高める指導技法について年間5日間、計14時間の講習を受講。全英語教員対象。平成27年度から5年間かけて実施。

平成27年度からハブスクール12校にそれぞれALT(外国語指導助手)を常駐配置しましたが、他の高校については、1名のALTが3~4校を巡回指導していることから、ALTの配置の拡充に努めます。

(参考) 平成27年度のALT等の配置状況

ハブスクール12校 : ALT12名を配置(各校に1名ずつ常駐)

他の学校のうち107校 : ALT29名を配置(1名が3~4校を担当)

他の学校のうち30校 : 在県外国人語学講師を年間100時間または200時間派遣。

宿泊生活を通して英語コミュニケーション能力を育成する「イングリッシュキャンプ in あいち」には、毎年多くの児童生徒の応募があることから、現在の事業とともに、ハブスクールと市町村教育委員会が連携した地域ごとの実施も検討します。

(参考) 平成27年度のイングリッシュキャンプ in あいち

4泊5日の合宿を、夏季2回、冬季1回実施。それぞれ児童生徒80名が参加。

海外の学校との教員の相互派遣等

平成27年度からオーストラリアのビクトリア州との間で開始した教員の相互派遣を今後も継続実施するなど、英語科教員の資質と指導力の向上を図るとともに、生徒が海外の高校の教員から直接英語を学べるようにします。

また、国際バカロレアの認定を目指す学校やスーパーグローバルハイスクール指定校等において英語で授業を行う数学科や理科等の教員を養成するため、英語科以外の教員の海外派遣についても検討します。

(参考) 平成27年度のビクトリア州との教員相互派遣

夏季に本県の英語教員6名をビクトリア州の高校に派遣、秋季にビクトリア州の教員6名を本県の県立高校に受け入れ。

平成27年度から開始した、英語教員をビクトリア州に派遣する「英語教員スキルアップ研修」を今後も継続実施するなど、英語教員の資質と指導力の向上に努めます。

(参考) 平成27年度の英語教員スキルアップ研修

夏季に本県の英語教員6名をビクトリア州に派遣し、現地の語学学校で指導技法を学ぶ。

その他の取組

グローバル社会においては、自国及び他国の歴史や文化を理解し尊重する態度を養うことが大切であることから、地理歴史科の授業において、我が国をはじめ、世界の様々な国や地域の歴史や文化についての課題探究的な学習を推進します。

また、多文化共生社会における異文化理解教育や人権教育の在り方について研究を行い、その成果を全県に普及します。

グローバル人材の育成を目指す各学校の取組をより効果的なものとしていくため、ハブスクール、スーパーグローバルハイスクール(SGH)等と、連携大学からなる組織を新たに設け、グローバル教育に関する研究や実践の成果を共有するとともに、生徒の発表と交流の場となる合同発表会を開催します。

(参考) スーパーグローバルハイスクール

文部科学省の研究指定校。将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成するため、国際化を進める大学等と連携を図り、質の高いカリキュラムの開発・実践に取り組む。本県の県立高校では、旭丘高校が平成26年度から、時習館高校が平成27年度から指定を受けている。

平成26年度に本県で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」の成果を継承するため、平成27年度から開始した「ユネスコスクール活性化事業」を活用し、先進的なESD活動をしている大学、NP などからの講師派遣や交流会、県外ユネスコスクールへの生徒交流派遣の実施を通じ、ユネスコスクールの教育活動の充実とネットワーク化を図ります。

平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピックや本県が誘致をしているフットサル世界大会は、将来グローバル社会で活躍しようとする生徒にとって絶好の経験の場であることから、開催時期に大学生等となる年代の生徒を対象として、平成29年度から3年間、「国際大会ボランティア養成講座」の開設を検討します。

本県の高校生が海外の大学に進学しやすい環境を整えるとともに、国内外の大学への進学を目指す海外帰国生徒や外国人生徒を受け入れるため、国際バカロレア（IB）ディプロマプログラム資格の取得を目指すコースの設置について検討します。

（参考）国際バカロレア（IB）ディプロマプログラム

ジュネーブに本部を置く国際バカロレア機構が認定する大学入学資格。統一試験に合格することで世界中の多くの大学を受験できる。授業は原則として英語、フランス語、スペイン語のいずれかで行うこととなっているが、平成28年度から、一部科目の授業と試験・評価を日本語で実施する「日本語ディプロマプログラム」が開始される。なお、「日本語ディプロマプログラム」の導入後も、英語及びそれ以外の1科目で、英語による授業を行う必要がある。

(2) 科学技術人材の育成とICT教育の推進

基本計画における改革の方向

グローバルなものづくり産業の集積地である本県では、世界を牽引する科学技術人材を育成することが期待されています。科学技術に興味・関心をもつ生徒の裾野を広げるとともに、生徒が情報や情報手段を主体的に活用する能力を育成します。

グローバル社会では、これまで以上に論理的に物事を考え、表現することが重要になります。授業において課題探究的な学びを重視したアクティブ・ラーニングを推進し、生徒の論理的な思考力・判断力・表現力を育成します。

理科教育環境の充実

理科教育においては、生徒が観察・実験などで実物に触れて探究的な学習を実施することが大切であることから、基礎的な科目において、一人一人が実験装置を操作できるよう環境整備を図るとともに、科学的リテラシーを身に付けられるよう授業改善を図ります。また、その後、発展的な科目における実験環境の整備に努めます。

理科設備の整備期間

平成27年度から3年間（基礎的な科目に対応する整備）

先進的なICT機器の整備とICT教育の推進

情報や情報手段を主体的に活用する能力を育成するために、タブレット型端末等の先進的なICT機器を活用した指導方法の実践的研究を行い、その成果を検証した上で、国の動向も踏まえながらICT機器の計画的な整備に努めます。

科学技術教育にかかる連携の充実

ものづくりを支える科学技術人材の育成が期待されていることから、県内6大学と連携して実施している「知の探究講座」を今後も継続実施するなど、高校生が先進的な理数教育を受ける場を一層充実していきます。

（参考）平成27年度 知の探究講座

協力大学：名古屋大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、
豊田工業大学、愛知県立大学 （受講生徒総数162人）

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）をはじめとする科学技術教育に力を入れている高校と、大学・研究機関等からなる「あいち科学技術教育推進協議会」の活動を更に活発にし、それぞれの研究や取組の成果を広く共有するとともに、英語による発表や質疑応答が行われるなど、高いレベルでの成果の発信と交流の場となっている「科学三昧 in あいち」について、参加校や参加者の一層の拡大を図ります。

（参考） スーパーサイエンスハイスクール

文部科学省の研究指定校。将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等、先進的な理数教育に取り組んでいる。本県の県立高校では、明和高校、一宮高校、半田高校、豊田西高校、岡崎高校、刈谷高校、時習館高校の7校が指定を受けている。

あいち科学技術教育推進協議会

平成27年度の参加校数：24校（スーパーサイエンスハイスクール7校を含む。）

アクティブ・ラーニングの推進

グローバル社会においては、知識を活用して問題を解決する能力や、知識を介して他者と活動する能力（ディスカッションやプレゼンテーション等の能力）がこれまで以上に求められることから、アクティブ・ラーニングの手法を用いた思考力・判断力・表現力を育成する教育を推進するための研究を行い、その成果を全県の高等学校に普及します。

（参考） アクティブ・ラーニング

教員が一方向的に生徒に知識伝達をする講義スタイルではなく、課題研究やディスカッション、プレゼンテーションなど、生徒による能動的な学習への参加を取り入れた指導方法。

その他の取組

ものづくりや科学技術の分野に女性が活躍する場が広がっていることから、女子生徒の理系分野への関心を高めるため、産業界や大学と連携し、女性エンジニアや女性科学者等による出前授業等の取組を推進します。

(3) 芸術、スポーツなどの分野における個性の伸長

基本計画における改革の方向

これからの社会では、様々な分野において子どもたちの活躍の場が世界に広がります。国境を越えて人々を結び付ける力をもつ芸術、スポーツなどの分野の学びを更に充実させるとともに、優れた個性や能力の一層の伸長を図ります。

芸術、スポーツを学べるコース等の設置

芸術やスポーツの分野において、生徒の優れた個性や能力を一層伸長し、将来、国際的に活躍する人材や、地域の学校教育や社会教育における指導者となる人材等を育成するため、芸術系大学等と連携した「美術コース」や体育系大学等と連携した「スポーツコース」、演劇やダンス等が学べる「創造表現コース」の新設を検討します。【P 24 に再掲】

芸術、スポーツに関するコース新設の検討

美術コース：東郷高校

スポーツコース：豊橋西高校

創造表現コース：名古屋西高校

芸術、スポーツの分野に特化した専門高校の設置について研究を行います。

2 キャリア教育と職業教育の一層の充実

(1) キャリア教育の一層の充実

基本計画における改革の方向

生徒が将来の職業生活について自分自身のビジョンをもつために、体系的・系統的に学習できる教育課程を編成するとともに、義務教育段階での取組も踏まえ、教育活動全体を通じてキャリア教育を推進します。

生徒が実社会を自分自身の目で見て、他者の生き方に触れる機会を増やすとともに、様々な人々と関わる経験を積むことにより、コミュニケーション能力を育み、道徳性・社会性の向上を図ることができるよう、インターンシップやボランティア活動などの体験的な活動を推進します。

キャリア教育に関する科目等の開設

小・中学校におけるキャリア教育の取組の成果を踏まえ、生徒に、将来社会の中でどのような役割を果たして生きていくかを考えさせるとともに、社会人として求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、キャリアプランニング能力などを育成するため、全ての普通科において、「産業社会と人間」、又は、総合的な学習の時間を活用したキャリア教育に関する授業(1単位以上)を実施します。

(参考) キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じて、キャリア発達(社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程)を促す教育。

キャリアプランニング能力

働くことの意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて、「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を取捨選択・活用しながら自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

産業社会と人間

総合学科における原則履修科目。産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や、調査・研究を通して、次の事項について指導することとなっている。

- (1) 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成
- (2) 我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察

(3) 自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成

普通科の一層の活性化を図るため、各学校の創意工夫を生かし、体験的な活動を取り入れた科目や学び直しの科目、職業科目を設定するなど、教育課程の弾力化を進めます。

(参考) 普通科における職業科目の設置状況

30校(平成27年度)

キャリア教育コーディネーターの配置とインターンシップ等の拡充

キャリア教育は、広く学校外に生徒の活動の場を求めたり、外部講師等を活用したりすることが必要で、多くの時間と人手がかかるため、各学校がキャリア教育を推進していく上での課題となっています。

そこで、インターンシップやボランティア活動の受け入れ先の開拓や、社会人講師の活用を推進するキャリア教育コーディネーターを地域ごとに配置し、各学校のキャリア教育を支援します。

インターンシップは、生徒が実社会を体験する中で、他者の生き方に触れたり社会で必要とされる能力に気付いたりする場であり、道徳性・社会性の向上にも結び付く有意義な活動であることから、キャリア教育コーディネーターや「あいち夢はぐくみサポーター制度」、さらには県産業労働部労政局が実施する産業人材育成情報発信強化事業を活用し、インターンシップ等に参加する生徒の増加を図ります。また、普通科を中心に、比較的取り組みやすい形態であるジョブ・シャドウイングの取組を広めます。

(参考) インターンシップ実施状況

インターンシップ等に参加した生徒の割合(平成26年度)

21.0%(普通科9.9% 職業学科50.7%)

あいち夢はぐくみサポーター

登録事業所数: 1,273社(平成27年5月現在)

ジョブ・シャドウイング

生徒が産業現場で従業員に「影」のように付き、その仕事内容や職場の様子を観察する活動。

その他の取組

各学校に、長期休業中等に取り組んだインターンシップやボランティア活動の成果を「学校外の学修」として単位認定する制度の活用を促し、生徒がより積極的かつ意欲的に体験的な活動に取り組めるような環境づくりに努めます。

(参考) インターンシップやボランティア活動の単位認定の状況

実施校数：13校(平成26年度)

生徒に、主権者としての自覚と、社会参画の力を育むため、公民科の授業や総合的な学習の時間を中心に、政治や選挙のしくみに関する理解はもとより、根拠に基づいて判断する力、討論等を通じて自己の意見を正しく表明する力、他人の意見を尊重する態度及び異なる意見を調整し合意を形成していく力等の育成に努めます。

(2) ものづくり愛知を支える職業教育の一層の充実

基本計画における改革の方向

産業界や国の関係機関、知事部局等との連携を一層密にし、ものづくりをはじめとする本県の様々な分野の産業を担っていく専門的な知識や技術をもつスペシャリストや、地域産業の担い手の育成に努めます。

第三次産業の拡大などの産業構造の変化や科学技術の進展等に伴う社会のニーズの変化を踏まえ、職業学科の改編や教育内容の見直しに積極的に取り組みます。

ニーズを踏まえた学科改編等

産業構造の変化や科学技術の進展等に伴う社会のニーズの変化を踏まえ、各職業学科において学科改編等に取り組みます。

ア 農業科

農業科では、安心・安全な食料の生産・供給、地域資源の活用、生産から流通、販売までを行う6次産業化等のニーズに対応するため、次の学科改編を行います。

[平成28年度]

半田農業高校：農業園芸科、生物工学科

農業科学科、施設園芸科

安城農林高校：生物工学科

フラワーサイエンス科

新城高校：園芸科学科、生物生産科、環境デザイン科

園芸デザイン科、食農サイエンス科

(総合選択制は継続)

(参考) 6次産業化

農林漁業者が主体となって、生産から加工・販売まで取り組むこと。

イ 工業科

工業科では、高度な資格取得のための実習や、熟練技能者による技術指導を取り入れ、本県のものづくり産業を支える実践的な技術・技能を身に付けた人材を育成するとともに、地場産業とのより深い連携を生かして特色ある工業高校づくりを進めるため、平成28年度に愛知総合工科高校を開校し、平成29年度以降、その他の県立工業高校で次の学科改編を検討します。

[平成28年度]

愛知総合工科高校：愛知工業高校を募集停止して開校

本科：機械加工科、機械制御科、
電気科、電子情報科、建設科、
応用化学科、デザイン工学科

専攻科：産業システム科、先端技術システム科

[平成29年度以降]

- ・ 技術革新により工業製品に様々な新素材が使用されるようになっていること、また、工業製品の開発にデザイン力や創造力が求められるようになっていくことから、学科改編により、新素材工学科及び工芸デザイン科の設置を検討します。

瀬戸窯業高校：セラミック科、デザイン科

新素材工学科、工芸デザイン科

同 専攻科：セラミック陶芸科

工芸デザイン科

- ・ 尾張地域に集積する航空宇宙産業の生産現場で活躍できる人材を育成するため、学科改編により、航空産業科の設置を検討します。

小牧工業高校：機械科 機械科の一部を航空産業科に改編

- ・ 名古屋南部地区に多い鉄鋼産業、石油化学産業等、エネルギーに関する産業現場で活躍できる人材を育成するため、学科改編により、資源エネルギー工学科の設置を検討します。

名南工業高校：情報技術科 資源エネルギー工学科

ウ 商業科

商業科では、生徒の多様な進路希望に対応する幅広いビジネス教育を総合的に展開します。その一環として、併置校や定時制の「商業科」を「総合ビジネス科」に改編します。

また、一部の商業科を設置する学校については、多様な進路希望に応えることができる柔軟な教育課程をもつ総合学科への改編を検討します。

[平成28年度]

新城高校 ：情報会計科 ビジネス創造科 （総合選択制は継続）

[平成29年度]

| | | |
|-------------|-------|----------------|
| 瀬戸窯業高校 | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |
| 犬山高校 | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |
| 古知野高校 | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |
| 木曽川高校 | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |
| 津島北高校 | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |
| 碧南高校 | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |
| 知立高校 | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |
| 成章高校 | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |
| 国府高校 | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |
| 瀬戸窯業高校(定時制) | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |
| 半田商業高校(定時制) | : 商業科 | <u>総合ビジネス科</u> |

[平成30年度]

緑丘商業高校 : 総合ビジネス科、経理科、情報処理科 総合学科

[平成31年度]

知立高校 : 普通科、商業科、情報処理科 総合学科

さらに、平成32年度以降に向けて現在の商業科を、次の3つのタイプに整理してそれぞれの特色化を図ることを検討するとともに、「商業高校」の名称についても検討します。

商業4分野の高度な専門性を身に付けることのできる学科

地域の特色やニーズに対応した学科

他の専門教科を含めた幅広い科目選択のできる学科

(参考) 商業4分野

マーケティング分野、ビジネス経済分野、会計分野、ビジネス情報分野

エ 家庭科

家庭科では、少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化、食育の推進などの社会の要請に対応し、衣・食・住や、保育をはじめとするヒューマンサービスなどに関わる生活産業の各分野で地域に必要とされる人材を育成するため、次の学科改編を検討します。

[平成29年度以降]

| | | |
|------|---------|--------------------|
| 松平高校 | : 生活情報科 | <u>ライフコーディネート科</u> |
| 佐屋高校 | : 生活情報科 | <u>ライフコーディネート科</u> |

オ 水産科

地域水産業の活性化に向け、地域産業界や関連機関と連携した研究を積極的に進めます。また、実習船「愛知丸」等で漁獲した水産物の活用を通して、経営、知的財産や6次産業化など、より充実した教育内容への改善を図ります。

カ 看護科

医療の高度化等に対応し、専門性の高い看護判断能力と安全で確実な看護技術の習得を目指すとともに、豊かな人間性を身に付けた看護人材の育成を図る教育を推進します。

キ 福祉科

介護福祉士等の資格取得を目指すとともに、高齢化の更なる進展に対応できるよう、より充実した教育内容への改善を図ります。

産業の複合化への対応

我が国では、従来の産業分類を越えた産業の複合化が進んでいることから、複数の大学科をもつ専門高校において、学科を越えて、他の学科の科目も学ぶことができる総合選択制の導入を進めます。また、農業、工業、商業の各専門学科が連携し、共通のテーマを設定して研究に取り組みます。さらに、その成果を踏まえて、複数の職業学科の内容を総合的に学ぶ新しいタイプの専門高校の設置について研究を進めます。

総合選択制の新たな導入

古知野高校：商業科、家庭科の2学科間で実施

佐屋高校：農業科、家庭科の2学科間で実施

現在の実施校 新城高校：農業科、商業科、家庭科の3学科間で実施

専門高校の学校間連携

半田農業高校

半田工業高校

半田商業高校

農・工・商の3校が連携した研究活動の実施

生産から、調理・加工、商品化・販売まで行う「6次産業化」に対応した教育課程の開発を、モデル校を設けて取り組みます。

6次産業化モデル校

猿投農林高校 地域の特産物を活用し、地域産業の活性化を目指した
6次産業化への取組

三谷水産高校 実習船「愛知丸」等で漁獲した水産物を活用した6次
産業化への取組

実習用施設・設備の充実

職業学科で学ぶ生徒がそれぞれの専門分野の基礎的・基本的な技術・技能を習得できる環境を整えるとともに、地域や産業界のニーズに対応するため、産業教育設備の基本方針を策定し、その基本方針に基づき、実習用設備の計画的な整備を目指します。

その他の取組

各地域の商工会議所や地元企業等の協力のもと、産業現場との連携プログラムや、長期間の現場実習、民間の技術者を社会人講師とする授業等を通して、実践的な技術・技能の習得を図るとともに、産業ニーズに合わせた教育課程の開発を進めます。

(参考) 技の探究

工業科の生徒が、協力企業が行う14日間の講座を受講し、ものづくりに関する高度な資格取得を目指す取組。平成26年度は、6企業で、9校47名の生徒が受講。

クラフトマン

産業界のニーズを踏まえた実践的な技術・技能を習得するため、協力企業のもとで、10日間の技能実習を行う取組。平成26年度は、52企業で、17校127名の生徒が受講。

職業学科の生徒が、それぞれの分野の専門家から指導を受け、実践的な技術・技能を身に付けることができるよう、県産業労働部の協力を得て、産業現場の第一線で活躍した経験をもつ人材を職業学科における実習サポーターとして活用する「ものづくりサポーターバンク制度」の導入を検討します。

職業学科等の生徒が学習の成果を広く地域に発表する場として毎年2地域で開催している「あいちさんフェスタ」を、今後も継続実施するなど、職業学科の魅力を広く県民に発信していきます。

(参考) あいちさんフェスタ

平成26年度：一宮市と刈谷市で開催

平成27年度：半田市と岡崎市で開催

職業学科における学校見学会や体験入学などの機会を一層充実させるとともに、小・中学校教員の職業学科についての理解を深めるため、教員対象の説明会や見学会等を積極的に開催します。

3 魅力ある高等学校教育の基盤づくり

(1) 教員の指導力向上と様々な学びの機会の充実

基本計画における改革の方向

ベテラン教員の大量退職を踏まえ、ミドルリーダーを育成していくための研修を充実させるとともに、各学校におけるOJTの一層の充実を図ります。また、民間人材の積極的な活用を推進します。

高大連携等の外部機関と連携した魅力ある教育活動を、より幅広くかつ円滑に行えるしくみを構築します。

若手教員の支援体制づくりとOJTの一層の充実

経験豊かなベテラン教員の大量退職期を迎え、若手教員の指導力向上が急務となっていることから、卓越した教科指導力を有する退職教員を「教科指導サポーター」として、各学校に派遣したり各地区の授業研修会の講師としたりすることを検討します。

若手教員の育成は、各職場における日常の業務の中で行っていくことが重要かつ効果的であることから、総合教育センターに、若手教員の育成等を目的とするOJT（On the Job Training）の研究会を置き、実践的な研究を行います。また、その成果を検証した上で、全校に普及します。

総合教育センターの機能の充実

総合教育センターと連携大学（愛知教育大学、愛知淑徳大学、金城学院大学、名古屋大学）との間で、教育研究、教員研修などの様々な分野における連携協力を一層推進し、将来の本県の教育を担う人材の指導力向上を図ります。

教育相談に関する専門家を総合教育センターに配置し、支援が必要な生徒に対する教育相談体制の一層の充実を図ります。

指導力の向上に資する研究成果や様々なコンテンツをホームページ等で積極的に発信し、その活用を促します。

高大連携の一層の推進

高大連携の取組が年々増加していることから、これらをより円滑かつ効率的に実施するとともに、更なる連携を推進していくため、教育委員会内に大学と高校をつなぐ役割を行うコーディネーターの配置を検討します。

高校と大学が相互のニーズを把握し、高大連携の魅力ある教育活動が一層推進されるよう、「あいちの学校連携ネット」の更なる充実と活用を図ります。

その他の取組

教員の採用に当たっては、多様な経験をもつ社会人等を含め、幅広く資質の高い人材の確保に努めます。

現行の「10年経験者研修」等の研修内容を改善し、ミドルリーダーの育成を図る研修を充実します。

(参考) 10年経験者研修

校内研修：15～20日(課題研究と校内発表会、研究授業等)

校外研修：8日(教科指導、服務、人権、異校種・社会体験研修等)

中学校の教育と高等学校の教育のより円滑な接続を図るため、中学校と高等学校間の人事交流を、市町村教育委員会と調整して実施します。

また、豊橋市などの先進地域の事例を参考にしつつ、中学校と高等学校間で、合同授業研修や授業交流に積極的に取り組みます。

職業学科の教員が、高度なものづくり等の現場を経験することでその指導技術を高めることができるよう、職業学科を設置する高校と、農業大学校やあいち産業科学技術総合センター、高等技術専門校などの専門機関との間で、人事交流の導入や長期研修等の拡充を検討し、順次実施します。

実技系教科の教員の技術・技能及び指導力の向上を図るため、「ものづくりサポーターバンク制度」(P16参照)を教員研修にも活用し、様々な分野で活躍する民間人材から教員が直接指導を受ける機会を設けていきます。

学ぶ意欲が旺盛な社会人との出会いは、生徒に自らの学ぶ姿勢や生き方を考えさせる契機となることから、昼間定時制高校や通信制高校で実施している聴講生の制度を、モデル校を6校程度指定して全日制高校においても導入します。

各学校の魅力を、小・中学生、保護者、さらには広く地域社会に伝えるため、公開授業の実施や、ホームページによる魅力ある授業、特色ある教育活動等の発信を積極的に行うよう促します。

(2) ICT環境及び安全な施設・設備の充実

基本計画における改革の方向

教育環境の充実のため、ICT環境の整備に努めるなど必要な施設・設備の整備を進めていきます。

機能的かつ安全な教育環境は、魅力ある学校づくりの大きな要素です。校舎等の耐震改修完了後、老朽化対策について、早期に将来計画を策定していきます。

ICT機器などの教育環境の整備

社会のあらゆる分野で情報化が急速に進み、情報活用能力を育成することが喫緊の課題となっていることから、無線LANやタブレット端末などのICT教育環境の整備に努めます。

これからの高等学校教育においては、課題探究活動や発表活動を主体とするアクティブ・ラーニングへの転換が強く求められていることから、現在、総合学科に整備しているプレゼンテーションルームをすべての高等学校に整備することを目指し、施設の改修等に併せて順次整備します。

老朽化対策の計画づくり

「愛知県公共施設等総合管理計画」(平成27年3月策定)の考え方に添って、老朽化対策を軸とする「県立学校施設の長寿命化計画」を策定し、この計画に基づき改修や改築による老朽化対策に取り組んでいきます。

なお、計画の策定期限は平成32年度までとなっていますが、できるだけ早期の策定に努めるとともに、一刻も早い改修が必要となっている建物については、計画の策定を待つことなく改修の実施を検討していきます。

また、計画の策定に当たっては、老朽化対策のほか、学習環境の質的向上にも配慮し、アクティブ・ラーニングへの対応やトイレの洋式化など、県立高等学校施設に求められる機能、性能の確保を図るとともに、魅力ある高等学校づくりを推進するための施設整備を目指します。

4 生徒のニーズを踏まえた様々なタイプの高等学校の配置

(1) 総合学科の新たな設置と普通科の活性化

基本計画における改革の方向

総合学科は、その特色ある教育により、生徒の目的意識や学習意欲が向上するなど、望ましい成果をあげています。県全体のバランスに配慮して更なる設置を進めます。

普通科の教育課程の弾力化を進め、各学校の創意工夫を生かした取組を促すとともに、時代の変化や生徒のニーズを踏まえ、普通科コースの改廃や新設を検討します。

総合学科の新たな設置

現在 9 校ある県立の総合学科高校は、生徒の主体的な科目選択を可能とする柔軟な教育課程や、系統的なキャリア教育により、生徒の目的意識や学習意欲が向上するなどの望ましい成果をあげており、入学者選抜においても高い志願倍率が続いています。しかし、既存 9 校への通学が容易でない地域が県内に 5 地域ほどあることから、まず第 1 期（平成 27～31 年度）において、名古屋と西三河の 2 地域での設置を検討します。

総合学科新設の検討

平成 30 年度 緑丘商業高校（商業科）＜名古屋市守山区＞

平成 31 年度 知立高校（普通科・商業科）＜知立市＞

平成 31 年度以降、更に 3 地域程度の設置を目指します。

既設

平成 11 年度 岩倉総合高校 岩倉市

平成 15 年度 蒲郡高校 蒲郡市

平成 16 年度 鶴城丘高校 西尾市

平成 17 年度 杏和高校 稲沢市、 知多翔洋高校 知多市

平成 19 年度 南陽高校 名古屋市港区、 豊田東高校 豊田市

平成 20 年度 岡崎東高校 岡崎市

平成 21 年度 瀬戸北総合高校 瀬戸市

普通科コースの改廃・新設

普通科コース制は、教育課程に体験的・実践的な学習を行う専門科目等を取り入れることで生徒のニーズや関心に応えてきましたが、時代の変化を踏まえ、コースの改廃や新設を積極的に進めていきます。

本県では東南海地震をはじめとする大災害への備えが喫緊の課題となっていることから、地域環境についての基礎知識と、防災や減災についての実践的な知識や行動力を身に付け、将来地域の防災リーダーとして活躍できる人材を育成するため、「環境防災コース」を設置します。

環境防災コースの設置

海翔高校（環境コースを改編して平成27年度に設置）

現在高校では全ての生徒に情報活用能力を身に付けさせる取組が行われていることから、平成14年度から設置してきた「情報活用コース」については、一部の学校を廃止、若しくは、資格取得を目指して積極的に職業科目を取り入れた「情報ビジネスコース」に改編します。

情報活用コースの廃止

犬山高校、幸田高校

情報活用コースを情報ビジネスコースに改編

守山高校、尾西高校、東浦高校、衣台高校、一色高校

本県教育の一層の充実を図るためには優れた資質をもった教員を養成することが重要であることから、大学等と連携し、小・中学校や高等学校の教員を目指す強い意欲をもち、幅広い教養、人間性、社会性、道徳性、リーダーシップなど、教員に求められる資質を身に付けた人材を育成する「教育コース」の新設を検討します。また、その成果を検証し、第2期に更に複数の学校への設置を目指します。

教育コース新設の検討

半田東高校、豊橋南高校

将来、看護師や理学療法士等を目指す生徒のために、医療・看護系の上級学校と連携した実践的、体験的な学習や「心」の教育を行う「医療・看護コース」の新設を検討します。

医療・看護コース新設の検討

長久手高校、豊田高校

男女共同参画社会の実現に向け、保育の担い手の確保が重要な課題となっていることから、大学等と連携し、幼児教育の場で必要とされる基本的な知識を学ぶとともに、実習を通して保育者に求められる人間性、社会性等の資質を育成する「子ども発達コース」の新設を検討します。

子ども発達コース新設の検討

武豊高校

諸外国との関係が今後ますます重要になってくることを踏まえ、我が国と関わりの深い国の言語や文化を学べる国際教養科や国際理解コースを全県にバランスよく設置することを検討します。【再掲】

国際教養科新設の検討

刈谷北高校（国際理解コースを改編）

| | |
|----|----------------|
| 既設 | 千種高校、尾北高校、御津高校 |
|----|----------------|

国際理解コース新設の検討

中村高校、一宮西高校、安城東高校

| | |
|----|-----------------|
| 既設 | 津島高校、常滑高校、豊橋東高校 |
|----|-----------------|

芸術やスポーツの分野において、生徒の優れた個性や能力を一層伸長し、将来、国際的に活躍する人材や、地域の学校教育や社会教育における指導者となる人材等を育成するため、芸術系大学等と連携した「美術コース」や体育系大学等と連携した「スポーツコース」、演劇やダンス等が学べる「創造表現コース」の新設を検討します。【再掲】

芸術、スポーツに関するコース新設の検討

美術コース：東郷高校

スポーツコース：豊橋西高校

創造表現コース：名古屋西高校

地域の活性化とともに、ホスピタリティ（おもてなし）の精神を育てることを目指し、観光産業全般で活躍できる人材を育成する「観光ビジネスコース」の新設を検討します。

観光ビジネスコース新設の検討

福江高校

その他の取組

普通科の一層の活性化を図るため、各学校の創意工夫を生かし、体験的な活動を取り入れた科目や学び直しの科目、職業科目を設定するなど、教育課程の弾力化を進めます。【再掲】

(参考) 普通科における職業科目の設置状況

30校(平成27年度)

(2) 多様な生徒のニーズに応える学校づくり

基本計画における改革の方向

中学校時代に不登校であった生徒など、特別な事情をもつ生徒が自分のペースで学習できる学校づくりを進めます。また、日本語指導を必要とする外国人生徒等の学びを支援する体制の一層の充実を図ります。

高等学校に在籍する特別な支援を必要とする生徒については、「愛知県特別支援教育推進計画（愛知・つながりプラン）」に基づき、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援・指導を行います。

これまでの連携型中高一貫教育の成果を踏まえ、本県における今後の中高一貫教育の在り方について検討します。

昼間定時制高校や全日制単位制高校の設置

中学時代に不登校であった生徒や、中途退学を経験した生徒など、特別な事情をもつ生徒のニーズに応じていくため、興味・関心に応じて科目を選択し、自分のペースに合わせて学習することができる昼間定時制高校や全日制単位制高校の設置を検討します。

ステップアップハイスクールの設置

愛知工業高校校地に、二部制単位制の定時制高校（ステップアップハイスクール）を開校（平成29年度）

昼間定時制高校新設の検討

御津高校に昼間定時制課程を併設

（御津高校全日制課程は学級規模を縮小、昼間定時制課程の学級規模は全県のバランスを勘案して設定）

全日制単位制高校新設の検討

地域のバランスを考慮し、3校程度を改編

（参考） 昼間定時制高校

昼間に原則1日4時間の授業を学習する単位制高校。幅広い選択科目から興味・関心や進路希望に応じて科目を選択する。原則4年間で卒業するが、特別な講座を受講することで3年間で卒業することも可能。自分のペースに合わせて柔軟に学ぶことができる。

全日制単位制高校

学年による教育課程の区分がない全日制高校で、生徒が幅広い選択科目から興味・関

心や進路希望に応じて科目を選択する。3年間の修得単位数の合計が卒業に必要な単位数を満たせば卒業が認められる。

多様な生徒に対する人的支援の充実

各学校には、不登校の生徒、進路、友人関係、家族関係等について深刻な悩みを抱えている生徒など、専門家による対応が必要な生徒が少なくなく、スクールカウンセラー（SC）のニーズがますます高まっていますが、現行では、1名のスクールカウンセラーが3～4校を担当しており、平均すると1校あたりの訪問回数が月に1～2回程度にとどまっています。国の動向を踏まえつつ、スクールカウンセラーの配置拡充を目指します。

（参考）平成27年度のスクールカウンセラーの配置

55人（1人年間280時間で3～4校を担当。2名はスーパーバイザー。）

定時制高校のみならず全日制高校においても、貧困、ネグレクト、DVなど、家庭環境等に複雑な背景を抱える生徒が少なからず在籍しており、これらの生徒に学業を継続させるためにも、早期の段階で専門家による支援を行うことが必要です。平成27年度は、2名のスクールソーシャルワーカー（SSW）が定時制課程の生徒の相談・支援に当たっていますが、その効果を検証するとともに、国の動向を踏まえつつ、全日制課程の生徒を含めて相談・支援ができるよう、スクールソーシャルワーカーの配置拡充を目指します。

（参考）平成27年度のスクールソーシャルワーカーの配置

2人（1人年間560時間。2人で定時制課程、通信制課程の計27校を担当。）

外国人生徒等選抜実施校や定時制高校など、日本語の能力が十分身に付いていない外国人生徒が在籍する学校には、外国人生徒の学習活動や学校生活等を支援する教育支援員を配置していますが、今後、外国人生徒等選抜実施校の拡大等に伴い、支援を必要とする外国人生徒等の増加が見込まれることから、教育支援員の配置の一層の拡充を図ります。【再掲】

（参考）平成27年度の外国人生徒教育支援員による支援状況

配置校：全日制7校、定時制19校

支援対象生徒：259人（全日制70人、定時制189人）

（母語別）：ポルトガル語103人、スペイン語17人、中国語42人、

フィリピン語75人、他22人

延べ支援時間：8,033時間（全日制3,159時間、定時制4,874時間）

中高一貫教育の推進

本県では、東三河の山間地域において連携型中高一貫教育が行われ、地域を支える人材の育成に成果をあげていることから、他の人口減少地域においても、新たに連携型中高一貫教育を実施するなど、県立高等学校の活性化を図ります。

連携型中高一貫教育の新たな実施の検討

福江高校 と 福江中学校

既設

田口高校 と 設楽中学校、津具中学校、東栄中学校、豊根中学校
新城東高校作手校舎 と 作手中学校

(参考) 中高一貫教育

中学校と高等学校の6年間の学校生活の中で、計画的・継続的な教育課程を展開することにより生徒の個性や創造性を伸ばすことを目的とし、平成11年度から始まった制度。次の3つの実施形態がある。

- (1) 中等教育学校：同一の設置者が一つの6年制の学校として運営する。
- (2) 併設型中高一貫教育：同一の設置者が中学校・高等学校を併設する。
- (3) 連携型中高一貫教育：異なる設置者間でも実施可能な形態であり、中学校と高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める。

6年間の継続的な教育により、生徒の個性や創造性を伸ばす、中等教育学校や併設型中高一貫教育校について、他県の成果や課題を参考にして研究を進めます。

その他の取組

定時制高校・通信制高校には特別な事情を抱える生徒が多数在籍していることから、生徒の実態に応じた教育課程の編成や、創意工夫を生かした教育活動を一層推進するとともに、支援を必要とする生徒のための相談体制や、社会的な自立に向けての支援体制の充実を図ります。

平成29年度に名古屋市内にステップアップハイスクールが新設されることを踏まえ、名古屋地区の夜間定時制高校及び通信制高校の今後の在り方について検討を進めます。

(参考) 名古屋地区の定時制高校7校、通信制高校1校

旭丘高校、明和高校、愛知工業高校(平成29年度からステップアップハイスクール)、瑞陵高校、名古屋西高校、熱田高校、名南工業高校、旭陵高校(通信制)

「愛知県特別支援教育推進計画（愛知・つながりプラン）」に基づき、個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用を促進します。

また、校内における特別支援教育の中心的役割を果たす教員を複数育成するとともに、全ての教員が特別支援教育を理解して基礎的な支援ができるよう研修を充実します。

（参考） 個別の教育支援計画

関係機関との連携を図りつつ、長期的な視点に立って、一貫して的確な教育的支援を行うために、障害のある幼児児童生徒一人一人について作成する計画。

個別の指導計画

個別の教育支援計画等を踏まえて、具体的に幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだ計画。

5 生徒が減少する地域における対応

基本計画における改革の方向

生徒が減少する地域については、それぞれの地域の実情を踏まえて、将来的な学校配置の構想を検討します。

特に大幅に生徒が減少する東三河地区については、生徒にとって魅力のある学校づくりを一層進めるとともに、これまでに築いてきた山間地域等に根ざした教育活動を支援していきます。また、各学校の学級数の縮減を図りつつ、地域の実情を踏まえて、将来的な学校配置を検討します。

魅力ある学科やコース等の設置

中学校卒業生数の減少が見込まれる東三河地区及び海部・津島地区や半島部において、県立高校の活性化を図るため、魅力ある学科・コース等の設置や、連携型中高一貫教育の新たな導入を目指します。

魅力ある学科やコース新設の検討 【再掲】

佐屋高校：総合選択制の導入

海翔高校：環境防災コースの設置（平成27年度設置）

豊橋南高校：教育コースの設置

豊橋西高校：スポーツコースの設置

福江高校：観光ビジネスコースの設置

連携型中高一貫教育の新たな実施の検討 【再掲】

福江高校 と福江中学校

昼間定時制高校新設の検討 【再掲】

御津高校

学校の統合

大幅に生徒が減少する新城地区においては、地区内に中規模の高校を存続させるため、新城東高校（普通科）と新城高校（農業科、商業科、家庭科）の2校を統合します。統合する新しい学校の在り方については、地域の意見を聞き、更に検討した上で発表します。

なお、新城東高校作手校舎については、統合後の学校の校舎とします。



愛知県教育委員会
(高等学校教育課)

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電 話 052-954-6787 (ダイヤルイン)
F A X 052-961-4864